理科シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 文系化学基礎演習	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2単位	第2学年	教科書：高等学校化学基礎（第一学習社） 資料集：スクエア最新図説化学（第一学習社） 問題集：セミナー化学基礎＋化学（第一学習社） チェック&演習化学基礎
学習の到達目標	化学基礎の総復習および昨年度出来なかった実験・実習に取り組むと共に、大学入学共通テストに向けての問題演習を行う。化学基礎の基礎固めをすると共に、応用力を鍛える。		
評価の観点	科学的事実がどのような仕組みで関わりあっているのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞		
	科学的法則や事象について理解を深めるべく、実証したり、それぞれの法則性や事象を比べたり、もしくは互いのつながりや影響を探究したり、自分の考えを発信したりすることができる。＜思考力・判断力・表現力＞		
	科学的事象や、実験もしくは観察結果について考察をする際、その資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの
- D：未提出，未実施

2. 学習内容及び評価方法

月	単 元	学習のねらい	実験実習・学習のポイント
一学期 中間	物質の構成	「物質の構成」について、復習および大学入学共通テストに向けての問題演習を行う。 選択式の回答方式に慣れる。	基礎知識の確認については小テストを行う場合がある。 問題演習では、各自で問題を解いた上で、生徒同士で学び合う機会を設ける。 授業内考査はマークシート方式を用いる。（以下、同様）

一学期期末	物質量 化学反応式と量的関係	「物質量」について、復習および大学入学共通テストに向けての問題演習を行う。	・化学基礎の計算の基礎を身につけられるよう、演習を徹底する。
一学期中間	酸と塩基・中和 酸化・還元	「酸と塩基、酸化還元」について、復習および大学入学共通テストに向けての問題演習を行う。	・高1履修時につまづきやすい範囲なので、基本知識復習を重要視する。
二学期期末	化学基礎全範囲	大学入学共通テスト過去問を解いて、総復習を行う。	
学期末	化学基礎全範囲	総復習をおこないつつ、30分間で化学基礎の共通テストを解けるよう問題演習を行う。	・実施できる実験や実習があれば行う。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
科学的事実がどのような仕組みで関わりあっているのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞			実験・実習課題提出
科学的法則や事象について理解を深めるべく、実証したり、それぞれの法則性や事象を比べたり、もしくは互いのつながりや影響を探究したり、自分の考えを発信したりすることができる。＜思考力・判断力・表現力＞			実験・実習課題提出、授業内 考査
科学的事象や、実験もしくは観察結果について考察をする際、その資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞			授業内考査